



## 行事報告 <クラブ行事>

### 第43回クラブ総会報告 令和5年6月17日（土曜日）16:00~18:00

今年は4年ぶりにリアルに集まったの総会を開催しました。例年利用させてもらっていた「平和」さんが閉店となってしまっていたので、京都スキー協が利用している「下京いきいき市民活動センター」の会議室を借りて開催しました。

総会には12名の参加がありました。会員更新については、金沢に引っ越して6年のOさんが残念ながら退会され、16名の会員と1名の賛助会員でスタートとなりました。議案、決算予算、役員体制、規約改定について全員賛成で承認を得ました。運営体制は競技担当は不在とし、その他は継続となりました。二年後に迎える45周年には何か記念になる物を作ってはどうかと提案があり、前向きに検討していくことになりました。会議後半は久しぶりの顔合わせの方もおられたので、各自近況を紹介してもらいました。1時間半ほどの総会の後は、京都駅前の酔心に移動して懇親会を行いました。懇親会には更に2名合流しました。

記：M・T



### <運営委員長の一言>

運営委員長を引き続き務めさせていただきます。 よろしく願いいたします。

今年11月で定年となります。が、仕事の内容が変わらなさそうなので、ちょっとがっかりしています。ただ、お休みは取りやすくなるので、スキーの滑走日数は増やせそうなのですが、収入は激減するので、何とも複雑です。今年度は、顔を合わせた企画が少しでも多くできるよう、努めていくつもりです。

### <事務局長の一言>

今年度も引き続き、事務局長を務めさせていただきます。

神奈川単身赴任も10年目に入り、今年迎える1回目定年後もしばらく単身赴任が続きそうです。コロナが落ち着いても、ZOOMを活用したクラブ内コミュニケーションができる、広域クラブのシティの形を続けられたらいいかなと思っています。シーズンオフは相変わらずゴルフで体力維持をはかっています。次シーズンは、皆さんと集まってグレンデ立ちたいですね。

# 行事報告 <全国・関西B・京都スキー協行事>

第54回京都スキー協 総会報告 令和5年7月23日(日曜日) 13:30~16:10

於：教育文化センター (Zoom参加あり)

シティからは、運営委員として現地1名、代議員3名がZoomにて参加しました。全体では、Zoom参加の7名を含め、計24名の参加でした。

運営委員長のあいさつの後、各部から「今年度の活動」と「来年度の活動方針」について報告されました。休憩をはさみ、後半には、各クラブや参加者の近況等について情報交換されました。

会員の高齢化と会員数の拡大および後継者の育成ということが課題にあがっていました。一方で、いずれのクラブも単独で従前のような行事が組めない中、クラブの垣根を越えて、楽しい行事に気軽に参加できるような仕組みを期待する声がありました。また、ケガに注意し、“安全”に楽しむことが大事だということが改めて確認されました。スキー協の行事をだけでなく、各クラブの活動を効果的に会員に伝える広報の充実、工夫が必要だとされました。

会場の音声が聞き取りにくいところもありましたが、終始穏やかに、概ねスムーズに会は進みました。最後に、今年度の京都スキー協の体制について発表され、副運営委員長の締めあいさつで閉会となりました。(報告：N・C)

## 行事予定 <クラブ行事>

### 《ちょっとGuest Please Talkの集い》

参加の皆さんで、スキーにまつわる経験・思考・知恵等を出し合って、少ない滑走日数の環境の中で、日々の暮らしでも、スキーに役立つような答えを、Generative(ジェネレーティブ→「生成力のある」) Pre-trained(プリ・トレーニング→「事前学習をする」)で、見つけて活かせる事をテーマに行います。



**こんな事** 重心(バランス)・目線・腕の使い方・外向傾や内向傾・ニュートラル・上下動・外脚と内脚・いつも後傾と言われる・小回り苦手・ゲレンデが荒れると怖い・日常のトレーニング等、スキーにまつわるetc.

**例え** Q「私は、滑走中目線が近い・下と言われる」 A「何かにつけて顎を起こして見るようにしている」

○日時 9月23日(土曜日) 時間(15:00~17:00迄)

○会場 下京いきいき市民活動センター 会議室1

〒600-8207 京都市下京区上之町38番地

Tel 075-371-82200

持ち物 筆記用具・飲み物・汗拭き(念の為)

**参加確認** 運営メンバーにお知らせ下さい//9月13日(水)迄

『終了後懇親会予定しています』詳細は別途案内します!!



## スキー思い出小噺 11 番外編 3

記：H・S

今回は、番外編のネタまとめです。3月のはじめ頃、赤倉観光リゾートシーズン券の提示で割引が利いたので、初めて池の平温泉アルペンブルックススキー場に行ってきました。平日の快晴で自衛隊の人たちがスキートレして、それが目立ったくらいガラガラでした。聞いていた通り広々としていて斜度も緩斜面が半分以上あり、初中級者のトレーニングや、じっくり技術のベースを身に付けたい方には、今まで行ったスキー場ではベストではと思いました。何となく気持ちもゆったりするところです。ただ普通に滑るには一日で飽きてしまう気がしました。

グレンデ中腹にワンレーンだけ人口コブの結構掘れたコースが作られていて、出来るだけ縦に突っ込んで滑ってみました。自分でも頑張れているなと思っていたのですが、滑走途中でわりと近くを通っているリフトから指笛のような音が聞こえてきました。褒められているのかと「オット」して、調子に乗って後2回滑ってしまいました。



カヤバゲグレンデステーションの近くにあるレストラン「ハタノ」で昼食をしましたが、名前の横文字とは異なり昭和のイメージを纏った食堂で、和食が値段のわりにボリュームもあり、小食の私は必死に平らげました。このスキー場で良くない思い出が出来たのは、車の右側後ろの角を擦り逃げされたことです。ゆったりと駐車していたはずなのに、帰り際に気付いてガックリきました。

赤倉観光リゾートスキー場では、コロナ禍の影響でリフトは四人乗りでも一人で乗ることがほとんどですが、時々後ろから現れるの

が同年配の方々です。地元の方で、若い頃は山岳捜索隊に所属していたそうですが、妙高地域の天気は実は長野県北部の予報が役立つそうで、一つ賢くなりました。家で邪魔になると言われて「三重からやって来た」と言った人や、77才の千葉の方は、とにかく車の運転が好きで、今シーズンも群馬方面や今回で10回目になると言っていました。高速料金が高いので出来るだけ一般道を走るそうで、2016年1月に起こった軽井沢スキーバス転落事故の現場も通り、「私が代りに楽しんできます」と伝えて捧げたと、とんでもない人がいます。

オーストラリアの年配の方々も同乗になりましたが、片言すら話せないもので、取り敢えず京都と言えれば何とかとっかかりで、単発の単語と身振り手振りでその場しのぎをしていました。こんな時イングリッシュができればと思いますが、思うだけでスキーのように身が入りません。

「ひとりぼっちスキー」は一見さみしさを連想させますが、滑る回数も増え滑りに没頭出来ます（費用対効果は上がります）。リフトでは仲間のガードがないので、話しかけたり話しかけられたりの機会も増え、上記のようなネタに出会えたりもします。自炊なので時間も取られ、時々洗濯もあり結構忙しいです。

今シーズン一番の出来事は、55年以上付き合ってきた眼鏡を必要としなくなった事です（しっかり目には近用・遠用の眼鏡は使います）。昨年夏に両目の白内障の手術をしてサイボーグになり、今シーズンから裸眼で0.8の視力回復により（運転免許証も眼鏡必須が外れ）、眼鏡とゴーグルのセットからゴーグルのみの使用になり、レンズ曇りやわずらわしさから解放されました。心地の良いことで今までハンディを持って滑っていたのを実感しました。